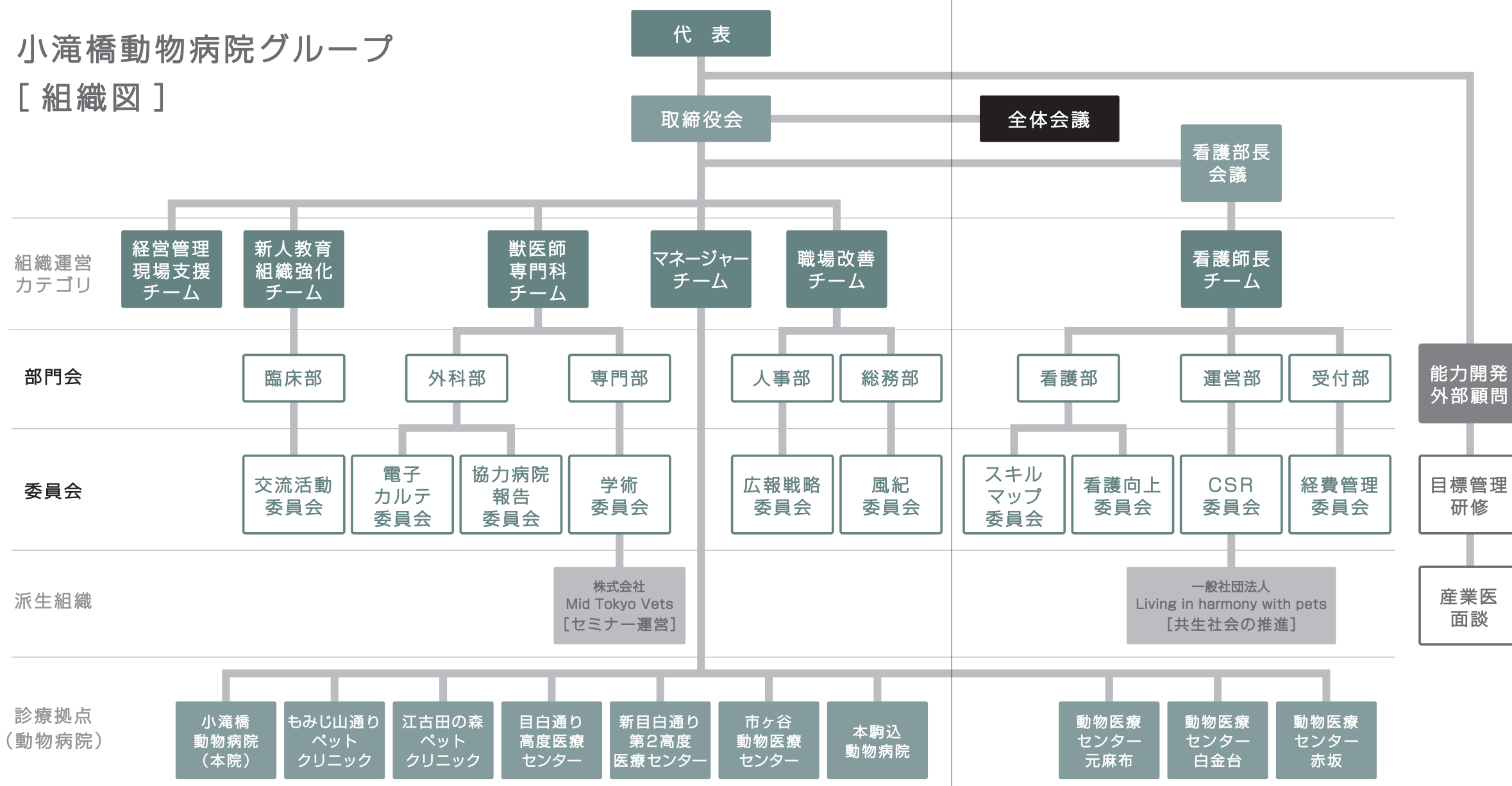




「医療の質向上から教育、CSRまで スタッフが自主的に運営しています」

グループ医療を支える全員参加型の組織運営

小滝橋動物病院グループ 〔組織図〕



グループ運営の基本となっているのは 全体会議と部門会、委員会

全体会議は、毎月1回15日の午後を全病院ともに休診にして行っています。

グループ全10施設の従業員は100名近くになり、同じ施設で働くことのないスタッフ同士はコミュニケーションをとる機会が得られず、医療連携や情報交換を阻害する恐れがあります。そこで全体会議の時間を設け、組織運営について全員で話し合いの時間も持つほか、コミュニケーションの機会に充てています。

〔全体会議の主な内容〕

- ①全体研修（90分間）
- ②MVP表彰
- ③部門会発表（40分間：全8部門）
- ④委員会発表（30分間：全10委員会）

①全体研修

獣医師チームと動物看護師&受付チームの2つに分かれ、外部講師の研修を受講します。内容は主に組織人としての成長、チーム力及び相互理解の向上を目指すものです。

②MVP表彰

獣医師より1名、動物看護師・受付より1名を選出し表彰します。選考のテーマは毎月変わり、各病院ごとに推薦された中から最終的に各1名が表彰されます。

③部門会発表

各部門より5分間の発表を行います。8つの部門すべてがスタッフによって運営されています。毎月の活動内容や課題を会議の中で全体へ共有します。各部門ともPDCAをしっかり確認して運営されています。

④委員会発表

各委員会より3分間の発表を行います。10の委員会があり、こちらもすべてスタッフによって運営されています。

【各部門会】紹介

主に診察の合間の時間に取り組みますが、より飼い主さん目線の病院づくりを目指しています。

◎臨床部：主に新人獣医師の教育に関する活動を行っています。

◎外科部：グループ内で手術を安全かつ円滑に行うための体制づくりを行なっています。

◎専門部：専門診療科の活性化、専門知識の共有、トラブル管理などの活動を行っています。

◎人事部：主に求人、実習見学、採用についての活動を行っています。

◎総務部：公平・平等な院内のルール作り、労働環境改善に関する活動を行っています。

◎看護部：知識、技術向上のため、学べて実践する場の提供を行っています。

◎運営部：主に院内掲示物の作成、新人看護師向け接遇セミナーなどについて活動を行っています。

◎受付部：グループ内での診察、薬価、検査、処置等の料金の設定や統一、受付周りのミス防止や最新情報の共有を行っています。

Chapter 2

Proud your way
～それぞれの個性を活かすキャリア～

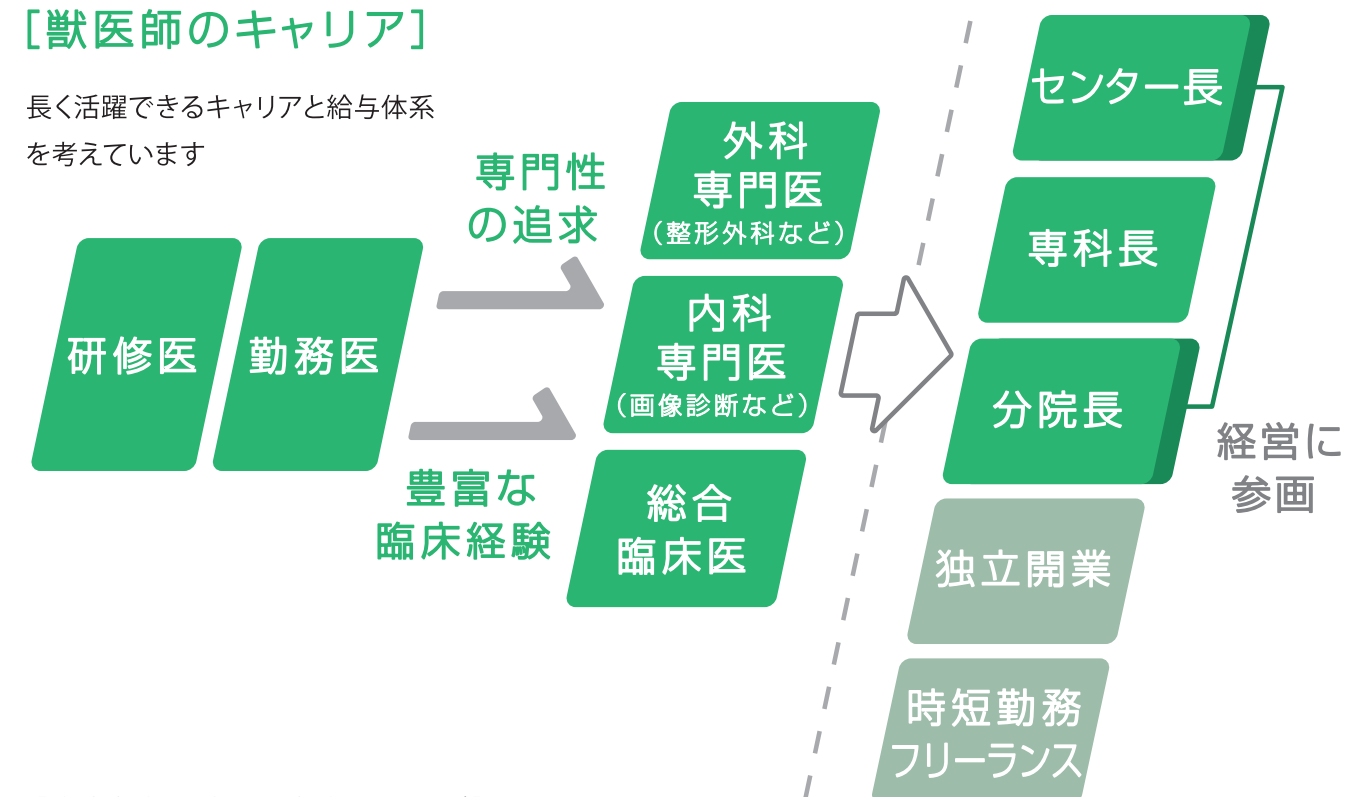
グループの成長を牽引する 個人のチャレンジと成長に よって実現されるキャリア

チャレンジする機会を大切にする小滝橋動物病院グループだからこそ
多くのチャレンジがグループ自体の質向上に貢献し
成長したグループが個人をさらなる高みに引き上げる土壌となる
好循環を生んでいます。

キャリアマップ（グループにおける成長および活躍のイメージ）

〔獣医師のキャリア〕

長く活躍できるキャリアと給与体系
を考えています

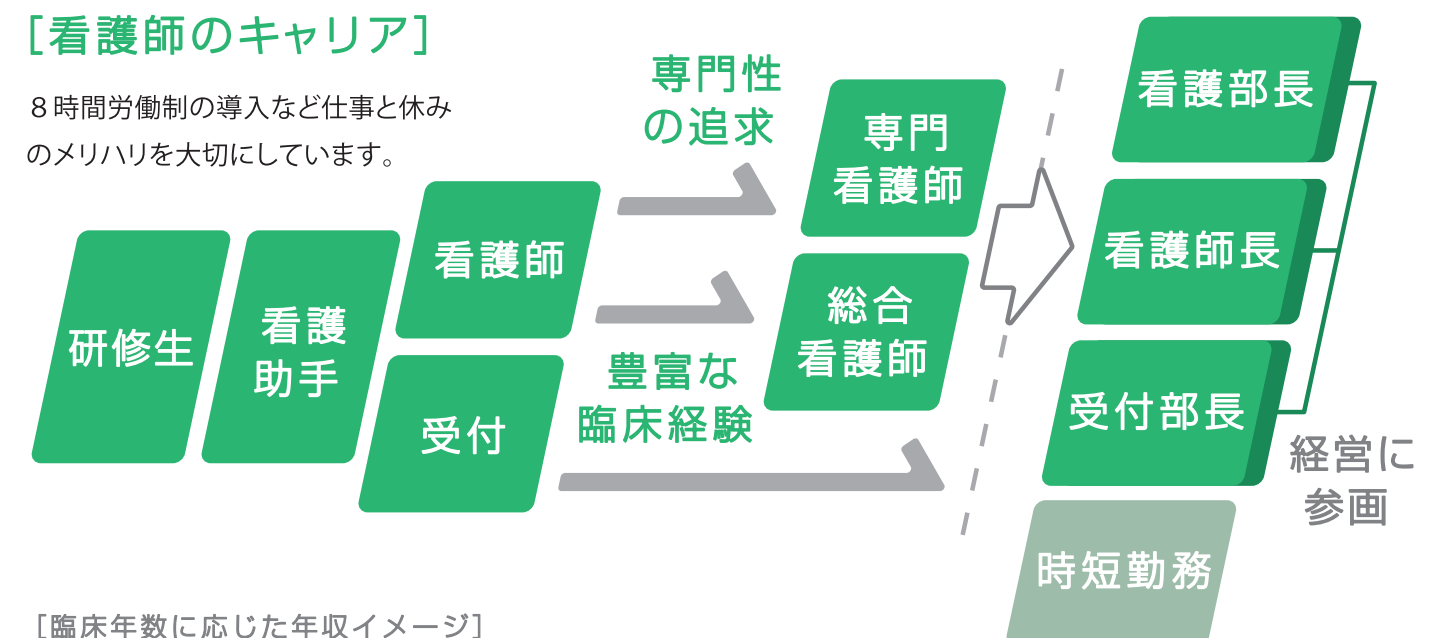


〔臨床年数に応じた年収イメージ〕

1～3年目 392万円～	4年目～ 434万円～560万円	6年目～ 560万円～980万円	役員 980万円～
-----------------	---------------------	---------------------	--------------

〔看護師のキャリア〕

8時間労働制の導入など仕事と休みの
メリハリを大切にしています。



〔臨床年数に応じた年収イメージ〕

1～2年目 266万円～322万円	3年目～ 294万円～336万円	例) 4年目 392万円	例) 看護師長 490万円	例) 看護部長 ～600万円
----------------------	---------------------	-----------------	------------------	-------------------

分院長
(一次診療を追求)



医療センター長
(二次診療を統括)



「適切に連携を行うために一番必要なことは 自分ひとりで全てを解決したいと思わない意識」

高度医療化が進んでいるからこそ
総合診療科の重要性が増しています。

Q：主にどのような活動をされていますか？

動物医療も人間の医療に近づき細分化されてきています。このグループでも専門科を志す獣医師が多く在籍していますが、私はあえてジェネラリストを志しています。人間の医療でも具合が悪いと感じたときに、いきなり専門科にかかろうとする人は少ないように、細分化が進めばこそ動物医療でも総合診療科の重要性が増してくるからだと考えます。

その子がどういう病気なのか、何が必要なのか、的確な道筋をつける役割を担うことで、高度医療を漏らさず受診できるようにしたいと考えています。

そのためには日々の勉強を欠かさず、すべての診療科目にわたる広い知識に加え、グループ内の高度医療チームが現在取り組んでいる最新の治療についてもアップデートを怠らないことが必要だと考えています。

一番大切だと考えているのは
「自分ひとりで解決したいと思わない」こと

Q：どんな心構えで望んでいますか？

グループ医療において一番大切だと考えているのは「自

分ひとりで全て解決したいと思わない」ことだと思います。「これは専門医に任せるべき」という判断をなるべく早くすること、そのためには余計なプライドを捨てることも必要です。自信がない科目こそ「素直に学ぶ気持ち」を持って専門の先生を頼ることができれば、病院としても個人としても得られるものが多いといえます。

地域に欠かせない病院にしたい。

Q：今後の目標について？

まずはこの病院を「ここに来れば安心だ」と地域の方に思っただけのような存在にすることです。

高度医療センターでは、病気を治して欲しいと希望される方が多く、ターミナルケアなどを求められることは少ないですが、この病院では「どうしていきましょうか」から始まります。飼い主さんの感情に寄り添うことができるよう、地域に馴染んでいく活動をしていきます。



西田 純平

動物医療センター赤坂 院長

得意とする科目：一般内科、一般外科、救急、血液内科、腫瘍、泌尿器内科
これまで幾つかの1.5次診療病院にて内科診療全般、一般外科、救急疾患を数多く経験。

- FRACTURE REPAIR IR 2018 参加 (Western Veterinary Conference)
- Uihon summer Program 2014 (Washington stage university)

「獣医師はもともと向上心を強く持っているもの チャンスを与えて人が育つ環境を継承したい」

いまある知識や技術で満足せず
常に上を求め続ける意識を
グループに根付かせたい。

Q：グループの医療の質向上のため行ってきたことは？

グループの学術面を特に任されているので、私自身が常に向上心を持って研鑽を積むことはもちろんですが、私の勉強に対する姿勢は皆に見られていると意識しています。獣医師はもともと向上心を持っているものだと私は思っているので、私の背中を見て皆が向上心を持ち続けることに繋がればとても嬉しいです。

また、新しいことにチャレンジし、チャレンジする人も応援するようにしています。私自身も中村代表からそういったチャンスを与えてもらったので、否定から入らないように気をつけています。

さらに、外部協力や転職などで外からやってくる獣医師がもたらしてくれる知識や意見は、抵抗感を持たず積極的に取り入れて前に向かう意識を持っています。

そして高度医療チームの活動においては、意見を出し合う機会を大切にしています。看護師さんなど獣医師とは異なる目線からの意見も貴重だと思っており、小さな意見でも「良くなるため」の意見はなるべく拾っていきたいと思っています。自分の意見が採用されて状況が

良くなる経験をするチームの一員である実感も強まり、チームの結束力も向上すると考えています。

グループの総合病院開設を成し遂げたい。

Q：今後の目標について？

すでに高度医療チームが活躍している専科については層を厚くしていきたいです。担当獣医師の出勤状況に影響されず毎日レベルの変わらない医療が提供できること、例えば循環器チームも現在は外科が中心ですが内科も含めた幅のあるチームにする予定です。

私自身の活動としては、実務はある程度他の獣医師に任せ、論文を国際的な学会に発表していきグループの信頼度や知名度向上にも貢献したいと考えています。高度医療スタート時に自分の中で掲げた「日本一の病院にする」という目標へ一歩ずつ近づけていきます。



井口 和人

目白通り高度医療センター センター長

得意とする科目：循環器科（心臓病科）、一般外科、一般内科
僧帽弁閉鎖不全症の手術治療を得意としています。

- 麻布大学 卒
- 日本獣医循環器学会
- 獣医循環器学会 専門認定医
- 麻布大学 小動物外科研究室 研究生
- 帝京大学 心臓血管外科学講座 大学院生



「これまで身につけてきたことのすべてを 地域の患者さんと、グループのために役立てたい」

医療の質はもちろん、この地域だからこそ
求められるホスピタリティを重視しています。

Q：他の病院との明確な違いはありますか？

AMC グループはよりホスピタリティを重視した動物病院を志しています。まず予約制であることに加え 1 件ごとの予約時間を長めに設定して、患者さん同士が重なることのないよう気をつけています。都心部ならではの特性として、1分1秒の時間を大切にされている方が多く、無駄にお待たせすることのないようスタッフ全員で引き締め対応しています。診察の中身においても、なるべく早く確定診断を行い選択肢を明確にお伝えすることが大切だと感じています。考え得る選択肢を明示して効果やリスクをご説明すると、迷わず決断される方が多いのもこの地域の特徴だと思います。また AMC グループだけの対応としては、来院が難しいなどの事情により要望に応じて往診の対応もしていることでしょうか。

もちろん何より大切なのは「この病院に来れば大丈夫だ」と思っただけの安心感」だと思っています。

知見に加え柔軟な姿勢でチャレンジしたい。

Q：これまでのチャレンジや経験は活かされていますか？

これまでずっと整形外科と腫瘍科へのチャレンジを続け

てきました。学生時代からそう思っていて、特に外科の経験をしっかり積める環境を求めてこの病院に入りました。実際に中村代表をはじめ先輩獣医師たちからも多くのチャンスをいただき手術経験はもちろん、比較的早い段階から分院長も任せていただいたので診療全般について多くのことを経験できました。

またグループで招聘している外部の専門医との交流の中で、専門性を追求することが一次診療全般のスキルアップに繋がる考えにも共感し、自分自身も腫瘍科の認定医資格の取得に至りました。また日々の診察に臨むため、どんな病状の子が来ても対応できるよう勉強を続け、アップデートされた情報にも積極的に接する習慣も身につけることができました。

今度は自分の経験やスキルをこの地域の患者さんのため、グループのために役立てるタイミングだと思っています。もちろんそこから得られる経験も多そうです。



磯野 新

動物医療センター元麻布 院長

- 2014～2020 年 日本獣医生命科学大学 外科学研究室 整形外科研究生
- 2020 年～ 日本獣医生命科学大学 外科学研究室 整形外科 大学院生
- Synthes Vet Spine Seminar 修了
- Synthes Vet TPLO Seminar 修了
- AOVET Course - Advanced Techniques in Small Animal Fracture 修了
- 日本獣医がん学会 II 種 認定医



「このグループで分院長を経験させてもらったことが 自分のターニングポイントになりました」

自己流に流れず正しい医療を行う習慣が
現在にも生きています。

Q：このグループで良かったことは何でしょう？

私が就職したときは今ほどの規模ではなかったですが、それでも獣医師の数が多く専門性を持っている先生も多かったのでいろいろ学ぶ機会が多かったです。学べる内容も自己流でない正しい医療が身に付く環境だったことが、非常にありがたかったと感じています。獣医師が多くて「上の先生たちが独占してチャンスが少ない」ということもなくとても良い環境でした。

現在の自信にも繋がる
良い経験をさせていただきました。

Q：ご自身のターニングポイントは？

キャリア4年目に市ヶ谷動物病院の院長を任せていただいたことです。ありがたいことに、任せていただいた後に多くの飼い主さんにお越しいただき、医療センターとして拡大移転するまでに至ったのは自信になりました。とはいえ成功した要因は私だけの力ではなく、現在でも市ヶ谷動物医療センターの院長を務めている渦巻先生にはとても助けられました。たまたま同期だったということもありお互いに切磋琢磨できたと感じています。

やってくる症例についての検討もそうですが、さらに上を目指し勉強を続ける原動力になりました。

そして、これが成功したもっとも大きな要因ですが、グループに高度医療センターがあることで地域の方にとって「身近でありながら、もしもの際も安心できる存在」となることができました。また看護師さんの明るさや元気さにも助けられ、良いチームであったと思います。

自分でも 1.5 次病院を目指しています。

Q：独立開業について？

開業時、物件選定から病院のレイアウト、銀行へ提出する事業計画書の内容まで中村代表にアドバイスをいただきました。背中を押していただき本当に感謝しています。開業後の今でも難治症例について高度医療センターへ紹介することがありますが、いずれはグループで学んだことを活かし 1.5 次まで診られる病院にしたいです。



本田 尚久

代々木上原動物病院 院長

- 日本大学 生物資源科学部 獣医学科 (外科学研究室) 卒業
- 市ヶ谷動物病院にて分院長
- 2020 年 代々木上原動物病院 開院

動物看護師
(手術助手を確立)



動物看護師
(リハビリ科を牽引)



「どうぶつと飼い主さん、獣医師の真ん中にいる感覚は看護師でないと味わえないやりがいです」

入社当時、手術補助のスキルが院内で確立しておらずチャンスだと考えました。

Q：現在までチャレンジしてきたことは？

働きはじめた頃から整形外科に興味があって、ずっとチャレンジを続けています。ちょうどグループが整形外科を充実させ始めた時期で、同じ病院であった磯野先生の背中を見続けてきました。整形外科は手術後、目に見えて回復するのですが、たとえば片足を地面に付けずに上げていた子が、術後すぐに（医学的にはあまり良くないことですが）自然に四つの足で立っている姿を目にすると本当に凄いと思いますし、飼い主さんが喜んでいる姿を見られるのも嬉しく思います。そんな分野に携わりたいと強く思いました。

そして当時はまだ手術助手として器具出しのスキルが院内で確立されていなかったのでは自分が確立していこう、チャンスだと考えました。

具体的には、器具の種類をカタログなどで覚えたり、手術に関してもまずは教科書で予習して、分からないことを獣医師に尋ねるということから始めました。手術の内容ごとに手順も使う器具も違うので、とにかく覚えることが多かったですが、それが苦労というよりも楽しくて仕方がなかったです。

何より中村代表をはじめ執刀医の磯野先生、看護師長の今井さんから、どんどん任せてもらえ、手術に立つ機会もたくさんいただけたので身につけることができたと思っています。

看護師ならではの関わり方があります。

Q：獣医師でなく、なぜ看護師に？

動物医療を志したのはある動物病院に通ったのがきっかけでした。その病院では院内のすべての取り仕切りを看護師さんがやっていてとても頼もしく憧れました。

働くようになった今でも、診察室の外でも飼い主さんと関われるやりがいは看護師ならではのものと強く感じ、やはり看護師が好きです。

医療の最後に生活に戻っていくときは看護師が関わる大切な仕事だと思います。手術の内容を理解できる立場として、リハビリにも力を入れていきたいです。



岩崎 愛女

動物看護師
【目白通り高度医療センター
／動物医療センター元麻布 勤務】

- 専門学校ビジョナリーアーツ 卒
- 統一認定看護師
- 日本小動物整形外科協会認定動物看護師

「大変なことや課題を乗り越えられた原動力は成果が出たときの患者さんの笑顔です」

リハビリの認知と充実に向け
一歩ずつチャレンジしてきました。

Q：現在までチャレンジしてきたことは？

学生のときからリハビリに興味を持っていました。特に完全に回復せず病气やケガと付き合っていく必要がある子の QOL 向上に関心がありました。

リハビリをはじめた頃、まだグループ内でリハビリ症例が少ない時ですが、術後 7～10 日入院する子に対して、学校で学んだことを少しずつ実践しはじめていました。当時はまだ新人で、看護について先に学ばなければならない状況であったので、本格的に取り組んでいる訳ではありませんでした。そんな中でも先輩看護師や当時分院長であった井口先生などから理解や興味を示していただき応援してもらえたので、少しずつ取り組みを深めていきました。

徐々にグループ内で「リハビリをした子は回復が早い」という評価を得られるようになりトレッドミル（水の浮力を利用した歩行訓練器）を導入することとなりました。そしてさらなる症例の増加に伴い、後輩の育成も必要となることから、リハビリ科の立ち上げが決まり、外部からリハビリ専門の獣医師の先生にも来ていただくことで手術との連携も強まりました。

飼い主さんだけでなく
動物との向き合い方が大切だと思います。

Q：立ち上げのチャレンジで苦労とその支えは？

数値化したデータや動画を用いることで客観視できる仕組みも作りましたが、思った回復が見られないときは不安にはなりました。また同じ目的であっても動物の性格によってやり方を変える必要があったり効果も変わってくるので経験や工夫が必要でした。そんなときいちばん心の支えになったのは、やはり回復した姿を目にした飼い主さんの喜ぶ笑顔だと思います。



外部協力のリハビリテーション専門獣医師
小笠原 茂里人

- 北里大学 獣医畜産学部 獣医学科 卒業
- 米国 C.C.R.P.(Certified Canine Rehabilitation Practitioner) 認定取得
- 所属学会：日本動物リハビリテーション学会、日本動物理学療法研究会、日本リハビリテーション医学会、日本神経理学療法学会



矢ヶ崎 望

動物看護師／リハビリテーション科
【小滝橋動物病院（本院）
／第2高度医療センター 勤務】

- 帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科 動物リハビリテーション研究室 卒業
- 統一認定動物看護師

Column スタッフの向上心を後押しする 教育体制

獣医師の教育制度

小滝橋動物病院グループでは、2年で「一人前」、4年で「主治医」、6年で「開業医」レベルを目指し、研修に取り組んでいます。

2年で「一人前」を目指すために【**卒後臨床研修**】を用意しています。

その他にも、整形外科を専門的に身につけたい獣医師のためのプログラム

【**整形外科専門コース**】や循環器外科を専門的に身につけたい獣医師のためのプログラム【**循環器外科専門コース**】も用意しています。

施設としても数少ない農林水産省指定の「臨床研修施設」の登録を目指しています。

【卒後臨床研修】

「社会人としての考え方」「思考スキル」「獣医療スキル」「コミュニケーションスキル」の4つを身につけます。

医療技術だけではなく、獣医療従事者としての心構えや社会人組織人としての在り方、チームメンバーや飼い主さんとのコミュニケーション能力を身につけていきます。どれだけ良い技術を身につけても、1人でできることは限られており、また礼儀やマナーが欠けていてはどれだけ良い医療を提供しても飼い主さんの満足は得られないからです。すべてをバランス良く身につけ「一人前」を目指します。2年間を4つのクールに分けてプログラムを実施しています。第1クール～第4クールまで6ヶ月ごとに区切り、インプット→アプトットを繰り返しながら目標達成に向け取り組んでいきます。内科だけではなく、外科スキルの習得に向けた研修もあります。

グループでは年間3000件以上の手術症例があり、特に外科スキルを習得しやすい環境となっています。麻酔の知識習得から始まり、滅菌などの基本動作、縫合実習など様々な実習を準備しています。手術動画共有システムも導入しているので、いつでも外科手術の勉強をすることができます。去勢手術は1年目の10月から執刀が始まり、一定数の症例を経験すれば避妊手術の執刀へ進みます。

そのほか、社会人としての心構えは入社後すぐの研修から学び始め、獣医師である前に1人の社会人としても成長を促します。

「なかなか診察に出れないのでは?」と思われるかもしれません。

小滝橋動物病院グループでは変な癖が付かないようしっかり基礎固めをした上で診療に出いただきます。グループの症例の中には高度医療施設もあり、飼い主さまの期待値がとても高く難易度の高い症例も多く受け持ちます。正しい治療を提案できるように自信を持って診療に臨むためには正しい成長が欠かせません。飼い主さんのため、そして獣医師の将来のため最善の教育を行います。

【整形外科専門コース】

最初の4年間で徹底的に知識のインプットおよび基礎固めを行い、5年目の執刀を目指します。

1～2年目：卒後臨床研修＋整形外科知識習得（動画視聴レポート10本及び院内症例検討会への参加）

3～4年目：一般診療、一般外科＋整形外科助手（決められた症例において助手を5症例ずつ経験、症例検討会における症例発表）

5～6年目：一般診療、一般外科＋整形外科執刀スタート（上記プログラムを経て整形外科長による承認が必要）

7～8年目：整形外科主任として活躍し後輩の指導も行う（大学院にて博士号の取得や専門医も目指します）

【循環器外科専門コース】

循環器外科を専門的に身につけたい獣医師のためのプログラムも用意しています。グループでは年間約80症例の循環器外科手術を行っており、先天性疾患や僧帽弁閉鎖不全症などの手術を行っています。

この循環器外科専門コースでは、10年目で心臓外科手術全般の執刀を目指します。

【カーリーナシステムを用いた麻酔指導】

日本でも導入先の少ない遠隔診療システム「カーリーナシステム」を用いて、月に数回、麻酔専門医による指導を受けています。

看護師の教育制度

看護師のスキル向上のための院内セミナーも多数開催しています。

【院内セミナー（2021年実施）】

- ・接遇セミナー
- ・血液検査＆塗抹セミナー
- ・尿検査＆糞便検査セミナー
- ・画像診断セミナー
- ・入院管理についてのセミナー
- ・レントゲンセミナー
- ・麻酔セミナー
- ・血液透析セミナー



獣医師（2年目）

尹 セレナ

動物医療センター元麻布 勤務

獣医師（3年目）

横山 美花

本駒込動物病院 勤務

獣医師（4年目）

山下 諒

目白通り高度医療センター 勤務

このグループには、向上心を持って 常に上を目指す空気感があります

皆が共通に感じているのは
一次診療の大切さとやりがい。

Q：働くようになってキャリアへの考えは変化した？

山下：僕は学生の中から腫瘍科の専門医を志し、学会に参加して認定医2種も取得しました。現在は認定医1種を目指している状況であり、いまのところ順調だと思いますし、キャリアについての考えは変わっていません。

横山：私は外科の研究室に所属して高度医療に携わる環境だったのですが、現在は一次診療から担当し、手術を行って回復までを見守る一連の流れに充実とやりがいを感じています。学生時代と比べれば、高度医療を目指すという気持ちは減ったと思います。

尹：私は研究室時代に呼吸器と画像診断を学び、日本語がネイティブでないことから診察には立たずに画像診断だけという思いでした。ただ実際に就職すると、診察の基礎が必要であったり、その後の治療の方向性で対応もまったく変わってくるので、「診察あってこそ」という思いが強くなっています。

山下：変化と言えば、大学病院のときに比べ1件の症例に対する時間の使い方が違うことに一番ギャップを感じました。時間内にしっかり結果を出さなければならぬことが今の自分には課題です。症例によってかけるべ

き時間の判断も経験を積むことで見極めができるようになって上の先生たちのように多くの症例に向き合うことができるようになると、結果として多くの経験を重ねることにも繋がるのだと思っています。

様々な先輩が、それぞれの活躍をしている。

Q：このグループは何が良い？そして今後について？

尹：多くの知見を持った先生も多いので、院内のセミナーや症例検討会が行われたり、ひとつの考えにとらわれずに広く学ぶ機会があるのがありがたいです。まずは早く一人前のレベルになりたいです。

山下：1.5次病院の良さとして、一次診療から高度医療がシームレスで行われています。二次専門の病院等と比べ、症例数が多いこともありますが、確定診断前の状態から向き合うのでとても経験につながります。この環境でさらなる向上を目指したいです。

横山：まずは一次診療全体のスキルを向上させたいです。たとえば二次病院で求められるのは手術のスキルだったりしますが、このグループでは担当医が診察をするところから始まります。飼い主さんとの対話を経てホームドクターとしてどうしていくべきか責任を持って受け持ちますが、そこに難しさとともに向上心を持って臨みたいと考えています。

キャリアファイル ⑦

若手獣医師が
考えるキャリア

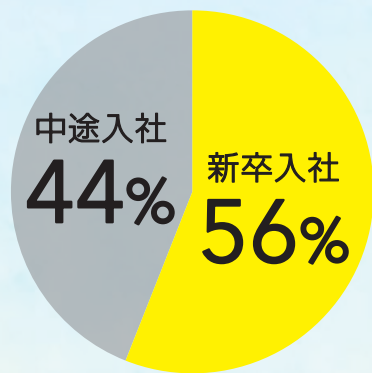
Chapter 3

小滝橋動物病院

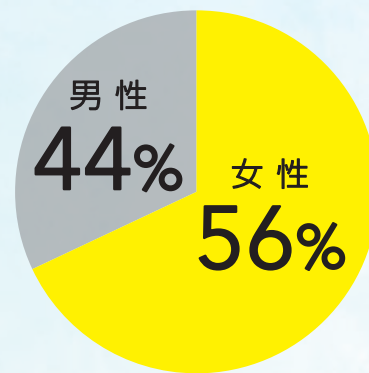
グループ白書

[スタッフの内訳について]

新卒と中途入社の割合は？



男女比率は？



どこから通勤してる？

- 1位：東京23区内
- 2位：埼玉県
- 3位：神奈川県
- 4位：千葉県

動物看護師に関しては、3交代制のシフトを導入しているため、早番の場合は病院から少し離れた場所に住んでいても遅い時間にならずに帰宅することができます。

[看護師について]

出身学校はどこ？

- 1位：日本獣医生命科学大学
- 2位：帝京科学大学
- 3位：中央動物専門学校
- 4位：ヤマザキ動物専門学校

その他、北里大学、東京コミュニケーションアート専門学校、専門学校ビジョナリーアーツ、未来ビジネスカレッジ、群馬動物専門学校、東北動物看護学院、東京ブレーメン動物専門学校などの出身者がいます。

どんな資格を持ってる？

- RECOVER
- 日本小動物整形外科協会 認定動物看護師
- 日本ドッグトレーナー協会
ドッグトレーナーライセンス
- 臨床栄養指導認定動物看護師
- ロイヤルカナン栄養管理アドバイザー
- 愛玩動物飼養管理士1級
- 愛玩動物飼養管理士2級

[獣医師について]

平均年齢は？

30歳

20代獣医師も多く活躍しています。

平均勤続年数は？

約6年

大半の獣医師が5年以上在籍し、10年以上勤務している獣医師もいます。そして多くの卒業生が開業を実現しています。

中途入社時の年数

- 1位：3～4年目
- 2位：7～8年目

動機として、3～4年目の方は「さらに経験を積みたい」「開業の前に経験を積みたい」という方が多く、7～8年目の方は「専門性をさらに磨きたい」「腰を据えてしっかり働きたい」という方が多いです。

出身大学はどこ？

- 1位：麻布大学
- 2位：日本獣医生命科学大学
- 3位：日本大学
- 4位：北里大学
- 5位：酪農学園大学

どんな資格を持ってる？

- 獣医循環器学会認定医
- 日本獣医がん学会腫瘍科認定医
- JAHA 認定総合臨床医
- AO Vet Principles
- RECOVER

大学研修に参加している？

- 麻布大学
小動物外科研究室 研究生
- 麻布大学
循環器科専門科 研修生
- 麻布大学附属病院
整形外科 レジデント
- 日本大学 外科研究室 研修生
- 帝京大学
心臓血管外科講座 大学院生
- 日本獣医生命科学大学
外科学研究室 整形外科 大学院生
- 日本獣医生命科学大学
放射線学教室 神経班 研修生
- 東京農工大学 皮膚科 研修生

所属している学会・研究会

- 日本獣医循環器学会
- 日本獣医神経病学会
- 獣医脳神経脊椎外科研究会
- 日本獣医腎泌尿器学会
- 動物臨床医学会
- 日本獣医がん学会
- 獣医アトピー・アレルギー・免疫学会
- 日本獣医エキゾチック動物学会
- 日本獣医麻酔外科学会
- 日本獣医皮膚科学会
- アジア獣医皮膚科学会
- 日本動物行動学研究会

[応募時、面接時によく頂戴

Q 配属先は選べますか？

A ご希望に添える場合と添えない場合があります。

新卒採用時は3ヶ月に1度、ローテーションがあるので様々な病院で経験を積むことになります。

Q 将来開業を考えていますが、採用していただけますか？

A はい、もちろんです。

皆様の夢や目標をできるだけ応援します。新卒に関しては「6年で開業医」レベルの獣医師まで成長することを目標としています。

中途採用の方で2～3年のみの勤務をご希望の方も受け付けています。

Q 専門性は身につけなければなりませんか？

A 必ずということはありません。

グループでは専門医療や外科手術が目立ちますが、それと同じくらい「正しい診断を下す」ことも重要視しています。総合臨床医として活躍している獣医師も多数在籍しています。鑑別診断を挙げられているか？必要な検査は行なっているか？正しい治療を提案できているか？を大事にしています。

Q 将来的に専科医療のみを行うことはできますか？

A はい、可能です。

ただし、まずは1次診療の経験もしっかり蓄積し、幅広い視野を持つてから専科医療中心に進んでいただくことになります。

Q どんな人材を募集していますか？

A 以下の3つに共感いただける方を求めています。

◎動物医療への想いがある：

皆様にも動物たちとの思い出や動物医療従事者になるきっかけがあると思います。

する質問（獣医師の場合）

◎向上心がある：

私たちは動物医療を人の医療にできるだけ近づけたいと考えています。

◎チームワークを大切に考える：

医療はチームで行うもの。一つでも多くの命を救うためにはチームワークが欠かせません。

Q 昇給について詳しく知りたいです

A 4年目以降、年2回昇給のチャンスがあります。

獣医師としての心構え、毎月の診療実績、チームへの貢献など総合的に判断し決定します。

Q 給与について詳しく知りたいです

A いくつかの例を紹介します。

- ・臨床6年目（勤務医）：700万円
- ・臨床7年目（総合臨床医）：700万円
- ・臨床8年目（分院長）：840万円
- ・臨床9年目（分院長）：980万円

Q いつから診療に出れますか？

A 2年目から少しずつお任せします。

変な癖が付かないようしっかり基礎固めをした上で診療に出いただけます。1年目は診療には出ませんが、毎月の診察ロール

プレイングや入院の面会などを通じてステップアップしていきます。

Q 研修はありますか？

A はい、あります。

グループ独自の入社2年間に行う『卒後臨床研修』があります。

Q 学べる環境はありますか？

A 動画共有システム、症例検討会など様々な機会を準備しています。

また大学院進学への補助などのバックアップもあります。

[獣医師の募集要項（新卒・中途）]

募集職種	獣医師（新卒・中途）	有給休暇	・初年度：はじめの半年は基本なし その後は10日／年 ・2～6年目：毎年2日ずつ増加 ・7年目以降：20日／年
仕事内容	犬・猫・その他小動物の外来、 入院業務、外科手術	福利厚生	・昇給あり：3年目までは 年1回 10,000 円 ・賞与あり：年2回 1ヵ月以上 ・社会保険完備 ・交通費支給：上限 10,000 円 ・PC 貸出、制服貸与 ・定期健康診断あり ・社員旅行（2年目以降） ・会員制リゾート施設利用 ・産休、育休制度：実績あり （現在も取得中のスタッフがいます！） ・大学病院研修費負担（4年目以降） ・歓迎会、忘年会など社内イベント多数 ・ペット医療費割引制度あり
勤務先	グループ病院、東京都内10ヵ所のいずれか （文京区、港区、新宿区、中野区、豊島区）		
給 与	・初任給： 月給 270,000 円 ・4年目以降：月給 310,000～400,000 円 ・6年目以降：能力に応じて昇給 例) 7年目獣医師：年収 840 万円 例) 9年目獣医師：年収 980 万円		
休 日	完全週休2日（曜日固定・移動可）		
有給休暇	・初年度：はじめの半年は基本なし その後は10日／年 ・2～6年目：毎年2日ずつ増加 ・7年目以降：20日／年		

[動物看護師の募集要項（新卒・中途）]

募集職種	動物看護師（新卒・中途）	休 日	完全週休2日（曜日固定・移動可）
仕事内容	診療補助、手術補助、入院管理、受付業務など	有給休暇	・初年度：はじめの半年は基本なし その後は10日／年 ・2～6年目：毎年2日ずつ増加 ・7年目以降：20日／年
雇用形態	正社員（中途）、新卒	福利厚生	・昇給あり：3年目までは 年1回 10,000 円 ・賞与あり：年2回 1ヵ月以上 ・社会保険完備 ・交通費支給：上限 10,000 円 ・制服貸与 ・定期健康診断あり ・社員旅行（2年目以降） ・会員制リゾート施設利用 ・産休、育休制度：実績あり （現在も取得中のスタッフがいます！） ・歓迎会、忘年会など社内イベント多数 ・ペット医療費割引制度あり
勤務体系	【勤務時間】3つの時間帯勤務 （勤務の固定および変動は自由） ・早番 8:30～17:30（1時間休憩あり） ・中番 9:00～18:00（1時間休憩あり） ・遅番 10:30～19:30（1時間休憩あり） ※みなし残業として勤務時間を1時間延ばす フルタイム勤務も可能です		
経 験	経験者優遇 （要看護師資格またはそれと同等の資格）		
勤務先	グループ病院、東京都内10ヵ所のいずれか （文京区、港区、新宿区、中野区、豊島区）		
給 与	・専門卒：月給 180,000 円～ ・四大卒：月給 190,000 円～ ※3年経験者は月給 210,000 円以上 ※早出、残業により毎月2万円程度の残業代が支給されます。		

[実習の流れと持ち物（獣医師・看護師共通）]

◎実習の流れ

実習は獣医師、看護師ともに1日から可能です。グループ病院の中で実習病院の希望を承っていますが、最初は目白通り高度医療センターまたは第2高度医療センターを見ていただくことが多いです。昼の手術の時間に移動して2箇所を見る方法もあります。

獣医師、看護師ともに10時～18時が実習時間です。
※詳細に関してはメールまたはLINEからお問い合わせください。

◎持ち物

- 履歴書
- 動きやすい靴（クロックス可）
- スクラブ下に着用のインナー（Tシャツなど）
- スクラブ上下（なければお貸しいたします）

◎お問い合わせ・申し込み連絡先

- メール：hr@otakibashi.jp
- LINE：@4250muvb
（動物医療センター元麻布 担当：磯野）

[労働環境についてよくある質問]

Q 社会保険は加入できますか？

A はい、加入いただきます。
社会保険は、健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、全て完備しています。

Q 休日について知りたいです。

A 完全週休2日制になります。
その他、年末年始の特別休暇、慶弔休暇、忌引き制度もあります。

Q 希望休みは取れますか？

A はい、取れます。
ただし人数が多いため全員で協力しながらシフトを組みます。取れないケースもありますのでご了承下さい。

Q 夜勤はありますか？

A はい、夜間の入院担当や手術になる場合があります。
その際は、通常よりも高い手当をお支払いします。

Q 有給休暇はありますか？

A はい、あります。
半年の勤務後、10日付与されます。その後、毎年2日ずつ増えていきます。7年目以降

は毎年20日付与されます。また、正月には診察時間が短縮となり、通常の休みにプラスして休日が付与されます。

Q 産休・育休はありますか？

A はい、ともにあります。
現在も3名のスタッフが産休及び育休を使用しています。

Q 試用期間において給与の変更はありますか？

A 条件面の変更はありません。
3ヶ月間の使用期間はありますが、その間も条件面の変更はありません。

Q 社員旅行はありますか？

A はい、あります。
2年目以降のスタッフが対象になります。弊社で会員権を持っているリゾートホテルへ3～4名1組となり、順番に参加します。

Q 社内イベントなどはありますか？

A はい、あります。
社員旅行以外にも新入社員歓迎会、BBQ、忘年会、ボウリング大会など様々な企画があります。

Q 健康診断は受けられますか？

A はい、法定検査項目については病院負担で受診できます。
病院負担で年1回受診できます。

Q 入社後に悩んだ時に、相談窓口はありますか？

A はい、あります。
産業医または外部コンサルタントへの相談などメンタルケアには力を入れています。

Q 実家のペットの病気についても相談できますか？

A はい、もちろんです。
スタッフや家族と一緒に暮らすペットには治療費割引制度があります。



社内イベント（クルージング）

[産休・育休について（自身の経験から、より環境の充実を考える看護部長）]

社会との接点が急に切れる心細さのなか
戻れる場所があったのは心の支えでした。

私の場合は妊娠中も体調が良かったこともあり、急に休むこともなく規定の産前6週前まで働くことができました。その際も周りのスタッフに助けられ、動物の保定など力がかかる作業をせず受付などを担当していました。その後、子供が無事に生まれ育休に入りましたが、コロナ禍の影響を受けてしまい復帰は約1年後となりました。育休中は急に仕事をしなくなり社会との接点が切れてしまった感じで、早く仕事に復帰したい気持ちは強かったです。そんなとき多くの人から「早くもどって来てほしい!」と言ってもらえたのは心の支えになりました。その間に人の入れ替わりもありましたが「戻っていいんだ」と思えたのは嬉しかったです。

仕事へ戻ってから改めて子供がいるスタッフの働きやす

い環境がとても重要だと思いました。保育園がお休みの日や子供の体調が悪くなったときは、家族に頼るか自身がお休みするかになってしまい、「急に休むことの気まずさ」は当事者になってはじめて感じたことでした。ルールや制度を設けることはもちろん、周りの理解を得て「休みやすい空気」をつくることも大切にしていきたいと思います。



動物看護師／看護部長

今井 彩香

目白通り高度医療センター 勤務



小滝橋動物病院グループ

otakibashi.jp/recruit/